



ときわだより

6月号

せせらぎ学びのエリア 上板橋第一中学校 上板橋小学校 常盤台小学校 弥生小学校

令和7年5月30日

板橋区立常盤台小学校



自分を大切に 相手を大切に

本校の学校経営方針に「SOSの出し方に関する教育」の推進を位置付けています。

「SOSの出し方に関する教育」では、子どもが悩みを抱えたときに、身近にいる信頼できる大人に助けを求めることができるようにすること、及び身近にいる大人がそれを受け止め、支援ができるようにすることを目的としています。

文部科学省が実施した「令和2年度不登校児童生徒の実態調査」によると、不登校であった児童が「休みたいと感じ始めてから実際に休み始めるまでの期間に相談した相手」（複数回答）は家族が最も多くて54%、そのあとに学校の先生、スクールカウンセラー、保健室の先生、友達と続くのですがその割合は低く、「誰にも相談しなかった」という回答は36%に及んでいます。この調査結果から不安や悩みを誰にも相談できずに、ギリギリのところで耐えている子どもたちが多くいることが分かります。

子どもたちの不安や悩みの原因は様々です。「勉強や進路のこと」、「顔や体型のこと」、「自分の性格のこと」、「学校生活のこと」、「友達のこと」、「いじめのこと」、「家族のこと」、他にもいろいろあります。大人でも子どもでも、不安や悩みをもつことは誰もが経験する自然なことで、私たちはこれらを乗り越えて成長しているといえます。しかし、不安や悩みが大き過ぎたり、長く続いたりすると、心や体によくない影響が出てしまうことがあります。

子どもが大人に相談するということは勇気がいることだと思います。そして、相談には繊細な内容が含まれていることが多くあります。それゆえに、教師は、子どもから相談を受けた際にとるべき具体的な行動や取組について準備をしておく必要があります。

また、子どもが相談しやすい環境を整えることも大切です。本校では、全学年で毎月、生活アンケート「ふりっきー」を実施しています。例年ですと1年生は2学期からアンケートを開始していましたが、今回、1年生でも回答しやすいアンケートの簡易版をつくり、5月に取り組んでみました。子どもたちの様子を見て、今後のアンケートの方法や時期などを検討していきます。

5年生では毎年、この時期にスクールカウンセラーによる全員面接を行っています。グループ面接（5名程度）を通してスクールカウンセラーと顔合わせをして、相談することへの抵抗感を低減することが目的です。子どもからの相談を待つだけでなく、相談しやすい雰囲気やきっかけなどをつくることによって早期対応につなげていきたいと考えます。

「SOSの出し方に関する教育」が実施されるようになった背景に、日本の若年層の自殺が減少しないという厳しい現実があります。自殺予防を目的に始まった教育ですが、今では子どもたちが安全に楽しく学校生活を送るために必要な教育であるという考え方が広まっています。

本校では「SOSの出し方に関する教育」に関連した授業として、4年生が絵本を活用した授業（板橋区健康推進課による板橋区立小学校への普及を目的としたモデル授業）、5・6年生がDVD教材（東京都教育委員会）を活用した授業を1学期中に行います。授業の様子は学校ホームページでご紹介します。